

ホームページが新しく  
なりました！！

<http://shizuken.com/>

# 薬局通信 はあもにい

No.122

2005

11月号

ことぶき薬局 TEL055(977)6024 FAX055(984)0770 たまち薬局 TEL054(251)1678 FAX054(251)1685

ひまわり薬局 TEL053(463)4312 FAX053(460)4612 みかん薬局 TEL053(584)2230 FAX053(584)2240

## 今後の医療・介護はどうなるのですか？

### 高齢者は安心して治療を受けられなくなる・・・？

2001年に誕生した現政権は「これからの社会保障制度は、給付は厚く、負担は軽くというわけにはいかない」と宣言して国民に応分の負担を強いる政策を推し進めています。この方針の基現在06年の国会に医療制度の大改悪を提出しようとする準備を進めています。以下に記載してあるのはその改悪の一部です。

#### 1. 高齢者の医療費負担はどうなるの？

- ・来年4月から更に負担が1割増やす考えです。
- ・2008年度からは保険料を新たに負担させられます。

現在高齢者の医療費は、原則1割負担です。一定所得のある人は2割負担になっています。厚生労働省の考えは、それぞれ1割ずつ引き上げて2割と3割にしようとしています。窓口での支払いは今の倍の支払いになるのです。これは、大変な負担増になります。厚生労働省は、さらに高齢者医療制度を2008年度につくる計画です。高齢者医療制度では、高齢者から保険料負担を月7,500円程度求めています。介護保険料と合わせると1人1万円以上の保険料となります。)

#### 2. 長期入院患者の居住費(ホテルコストといわれている)・食費は？

- ・来年4月から1ヶ月間入院すると約3万5千円の負担増？

医療費の自己負担増額とともに、今入院患者の入院料(特に居住費)や食費が全額自己負担にされようとしています。国は「ホテルに泊ったら、宿泊費は払うのに入院したら支払わないのはおかしい」などと変な解釈で自己負担を導入しようとしています。同じく食費にいても、同様の考え方です。

#### 3. 高額療養費は自己負担額限度額の引き上げ？

高齢者は、来年4月より現在入院40,200円の月額上限を一般並みに、一般は入院72,300円+医療費の1%をさらに引き上げる姿勢です。高齢者の負担増は止まるところがありません。

#### 4. 低額医療など(風邪薬など)は、全額自己負担(1,000円程度)？

風邪薬など一定額までの低額医療を全額患者自己負担に、来年4月からしようと考えています。低額な医療は自己判断で、治療方針を決めなさいと言っているようなものです。昔から「風邪は万病のもと」とも言われています。早期発見早期治療が有効な今日、本当にこれで国民の安全な医療が確保できるのでしょうか。

私たちはこのような医療改悪に反対しています。現在国会請願署名を集めて国会に請願に行く予定です、みなさまのご協力をよろしくお願いします。

# 冬に注意！肌の乾燥

冬は、冬季の低温や低湿度、また暖房による低湿度によって皮膚の乾燥による疾患が発生しやすい季節です。乾燥した皮膚は外部からの刺激を受けやすく、かぶれや湿疹も起こりやすいという油分が足りないため、肌の表面に裂け目が出来やすくなります。

今回は、乾燥によって悪化しやすい皮膚の疾患についてお話したいと思います。

## 《 肌の乾燥と疾患 》

皮膚の乾燥状態は角質の水分量の低下によりもたされます。

皮膚の乾燥を生じる皮膚疾患としては、アトピー性皮膚炎と老人性乾皮症、そして老人性乾皮症から生じてくる皮脂欠乏性皮膚炎がその代表となりますが、老人性乾皮症は冬季になれば多くの高齢者に見られ、その症状が進んで湿疹を生じてくる皮脂欠乏性皮膚炎も高齢者であればどなたにでも生じ得る疾患です。

アトピー性皮膚炎は小児期に始まり、アレルギー症状を生じやすい遺伝的要素のほか、最近では乾燥して外的刺激に弱い皮膚要素の両者が関係している慢性湿疹と考えられています。

## 《 治療 》

### アトピー性皮膚炎における薬物治療

ガイドラインによる治療手順はステロイド外用薬の使用が基本で、以下の手順を繰り返します。

まず、湿疹の重症度や塗布部位に適するステロイド外用剤でかゆみや炎症を抑えます。

\* 患部以外の肌は正常に見える皮膚でも、多くは乾燥状態にあるため、できるだけ広い範囲に保湿剤を塗ります。ステロイド外用剤は皮膚炎の明らかな範囲を中心に塗ります。近年ではステロイドの代わりにタクロリムス軟膏(プロトピック)を使用する場合も増えてきました。

炎症の改善に伴って種類の違うステロイド外用剤に変えたり、使用量や回数を減らします

皮膚炎の状態が落ち着いてきても、皮膚が乾燥した状態が続いていますので、保湿剤は毎日しっかり使いましょう。

\* 保湿剤は手のひらに多めにとり、しわに沿ってまんべんなく塗り伸ばすように使います。

保湿剤で良い皮膚の状態を維持します

皮膚炎がないからといって保湿剤の使用を止めてしまうと、どうしても皮膚は乾燥しがちとなり、様々な刺激に敏感に反応して容易に皮膚炎を再発してしまいます。1日1回は必ず保湿外用剤を塗りましょう。入浴後が最も効果的です。

\* の他に、内服薬も組み合わせての治療もあります。

### 老人性乾皮症、皮脂欠乏性皮膚炎における薬物治療

高齢者では、加齢に伴う表皮細胞のセラミド類の合成低下が生じるため、殆どの方に皮膚の乾燥傾向が見られます。乾燥して、かゆい状態の老人性乾皮症から湿疹の生じる皮脂欠乏性皮膚炎へ悪化します。

皮脂欠乏性皮膚炎の場合は、ステロイド外用剤で炎症症状を改善させます。

老人性乾皮症の状態に戻してから保湿剤により水分を補います。

加湿器を用いて室内の湿度を保ったり、お風呂では体を強くこすりすぎないようにしましょう。

## ポイント

### ステロイド外用剤の適量について

入差し指の先端から第一関節部まで5g チューブから軟膏(クリーム)を出すと大体0.5gとなります。この量が成人の手2個分の範囲に塗布するのに適した量です。ローションでは一円玉程度の大きさをとって成人の手2個分の範囲に塗布します。

